

博物館講座

10/11 (日) 化石の日関連特別講座
「化石から知る生物の栄枯盛衰」(地質)
カンブリア大爆発によって急速に進化したとされる海の生きものたち。実際はどのように進化していったのか、最新の研究成果から学びます。(令和2年度名古屋大学博物館との相互協力事業)

講師	大路樹生 教授
時間	13:30~15:00
対象	小学生以上
場所	研修室1
募集期間	9月13日(日)~9月27日(日)
定員	40名 → 30名

10/18 (日) 大地のつくりを観察しよう (門川編) (地質)
門川町庵川漁港周辺の海岸でみられる地層・岩石の観察から大地のつくりを考えます。※健脚向けです。

時間	13:00~15:00
対象	小学生以上
場所	庵川漁港周辺
募集期間	9月20日(日)~10月4日(日)
定員	20名

10/25 (日) 自然の色で染めてみよう (植物)
草木染めの工程を体験的に学ぶ初心者向けの講座です。やさしい自然の色で自分だけのオリジナルグッズを作ります。

時間	10:00~15:00
対象	小学生以上
場所	研修室2
募集期間	9月27日(日)~10月11日(日)
定員	20名 → 15名

10/31 (土) 宮崎の歴史を学ぶ2 (歴史)
「延岡城下図屏風」を用いて、江戸時代の延岡について学びます。

時間	10:30~12:00
対象	一般(小学校高学年以上)
場所	研修室1
募集期間	事前申込みなし
定員	40名 → 30名

11/3 (火・祝) 博物館こどもDAY (全部門)
子どもたちを対象に自然や歴史に親しんでいたけように、さわれる標本などのミニ展示などを行います。

時間	10:30~15:30
対象	こども
場所	エントランスホール
募集期間	事前申込みなし
定員	なし

11/7 (土) 特別展関連講座
「みやぎきの神楽を学ぼう」(民俗)
宮崎県に伝わる神楽(高原の神舞)について、その歴史や特色について学びます。

時間	13:30~15:00
対象	一般
場所	研修室1
募集期間	事前申込みなし
定員	40名 → 30名

11/15 (日) 見立溪谷の秋の紅葉観察会 (植物)
秋深まる見立溪谷で、紅葉を迎えた樹木を中心に植物観察会を行います。

時間	10:00~12:00
対象	小学生以上
場所	見立溪谷(日之影町)
募集期間	10月18日(日)~11月1日(日)
定員	20名

11/22 (日) 西都原古墳群の終末期古墳を中から観察しよう (考古)
西都原古墳群の終末期古墳である鬼の窟古墳を中から、他の古墳を外から観察して、西都原古墳群の最終段階の古墳形成の歴史やヤマト王権との関係について学びます。

時間	10:00~12:00
対象	小学生以上
場所	西都原古墳群(西都市)
募集期間	10月25日(日)~11月8日(日)
定員	30名

11/29 (日) 火山灰の地層を観察しよう (地質)
高原町梅ヶ久保の火山灰露頭を観察します。約34万年前の加久藤カルデラから約7300年前の喜界カルデラまで、南九州の火山噴火を一気にたどります。

時間	10:00~12:00
対象	小学生以上
場所	梅ヶ久保(高原町)
募集期間	11月1日(日)~11月15日(日)
定員	20名

12/5 (土) 佐土原人形絵付け体験 (民俗)
県の伝統的工芸品である佐土原人形の絵付け体験をします。

時間	13:00~15:30
対象	小学生以上
場所	研修室2
募集期間	11月7日(日)~11月21日(日)
定員	20名 → 15名

12/6 (日) 調べよう! 鳥の飛ばしくみ (動物)
標本を用いて鳥類の体のつくりを学習します。鳥の動く様子を調べて飛ばしくみを詳しく調べます。

時間	10:00~12:00
対象	小学生以上
場所	研修室1
募集期間	11月8日(日)~11月22日(日)
定員	30名

12/12 (土) 火山灰の粒を観察しよう (地質)
南九州に影響を及ぼした代表的な火山の火山灰を顕微鏡で観察します。

時間	10:00~12:00
対象	小学生以上
場所	研修室2
募集期間	11月14日(日)~11月28日(日)
定員	20名 → 15名

1/17 (日) 大淀川下流域の考古学
~弥生時代のムラと墓~ (考古)
大淀川下流域の本館所蔵の考古資料や発掘調査された遺跡から弥生時代のムラと墓とその交流について学びます。

時間	13:30~15:00
対象	一般
場所	研修室1
募集期間	事前申込みなし
定員	40名 → 30名

2/13 (土) 森を守る「ササラダニ」を観察しよう! (動物)
森の落ち葉の中には、何百種類というササラダニが住んでいます。顕微鏡を使って観察し、お気に入りのササラダニを見つけよう! この講座に参加すれば、きっとダニが好きになる。

時間	10:00~12:00
対象	小学生以上
場所	研修室2
募集期間	1月16日(日)~1月30日(日)
定員	10名

講座の申込みは、次の方法で受け付けます。詳細は、博物館にお問合せください。
①はがき ②FAX ③ホームページ ④来館時に総合案内
お問合せ TEL 0985-24-2071 FAX 0985-24-2199

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止、変更となる場合があります。申し込みの際はHPでご確認ください。

展示解説員の声

博物館の1階にある情報室は、書籍や図録の閲覧だけでなく、未就学児や小学校低学年の親子を対象に、折り紙などができるスペースが設けられていることをご存じですか?
当館のキャラクターにちなんで「むーちゃん広場」と名付けています。ここでは折り紙の他に植物や昆虫、恐竜など当館に展示されている資料を素材としたオリジナルのぬり絵、パズル、クイズを用意しています。このような遊びを通して、子どもの頃から博物館に親しんでもらえたらと思います。
ぜひ気軽に立ち寄って、親子で楽しい時間を過ごしてください。利用日は平日(休館日、土日祝日を除く)、利用時間は9:00~16:00、最大利用人数は5名程度となります。(猪土)



観覧時間・休館日のお知らせ

観覧時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
休館日 毎週火曜日
★12/28(日)~1/5(火)、年末年始のため休館します

博物館のホームページにはイベント情報、寄せられた質問とその答え、過去の「森の通信」、などの情報が盛りだくさんです。ぜひアクセスしてみてください。

公式HPより各SNSにアクセスできます
みやはく 検索

第69号
自然と歴史の大発見
宮崎県総合博物館
Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History
発行日/2020年9月7日
発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ E-mail:hakubutsukan@pref.miyazaki.lg.jp FAX(0985)24-2199

森の通信

国文祭・芸文祭みやぎ2020 さきがけプログラム(特別応援プログラム)
宮崎県総合博物館 特別展

みやぎきの神楽

神々への感謝と祈り

尾八重神楽

日之影(天人)神楽

西米良(村所)神楽

高千穂(浅ヶ部)神楽

潮見神楽

諸塚(下)神楽

銀鏡神楽

船引神楽

高原祇川神舞

高瀬神楽

新田神楽

2020年 10.17(土)~11.29(日)

会場/宮崎県総合博物館 2階特別展示室
観覧時間/午前9時~午後5時(入場は午後4時30分まで)
観覧料/無料 ※休館日:毎週火曜日(但し、11月は3日(火)開館、4日(水)休館)

宮崎県は日本有数の神楽の継承地です。その神楽は、各地で数百年という長い年月を経る中で様々な姿となり現在に至っており、展覧会では県内神楽の歴史や多様な内容を一堂に会して紹介します。祭りの場では近くで見ることができない外注連や彫り物、天蓋、採物、神楽面、衣装、楽器、唱歌・神楽歌の記録などを展示します。さらに神楽と結びつきが深い記紀神話などに関する資料についても紹介します。

神楽展に会場した子ども(12歳以下)に
先着 5000名
神楽お面(紙)をプレゼント

講座紹介

野外講座「丹助岳に登って環状岩脈を観察しよう」

環状岩脈とは、リング状に貫入したマグマが冷え固まってできた岩脈です。丹助岳は巨大な環状岩脈の一部で、約1,500万年前に貫入した硬い花崗斑岩でできています。この講座は令和元年11月23日に実施したものです。当日は紅葉を眺めながら登山道を進みました。天狗岩に立ち寄った後、丹助岳山頂から東に矢筈岳、比叡山を望み、環状岩脈の形を観察しました。



丹助岳山頂から東方に見える環状岩脈の岩峰群
(写真右より矢筈岳西峰、東峰、縹の瀬川の谷をはさんで比叡山)



宮崎の地形がいつ・どうやってできたのか、地質学の視点で風景を見ると楽しみが何倍も広がります。地質部門では、毎年テーマや場所を変えて野外講座を実施しています。皆様の御参加をお待ちしております。
(濱田)

宮崎の歴史情報

小丸川下流域の「焼失住居」は考古情報の宝庫

小丸川左岸の台地上の川南町赤坂遺跡(23軒中8軒)・湯牟田遺跡(21軒中11軒)・尾花A遺跡(246軒中111軒)などの東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う発掘調査で多数の「焼失住居」が検出されています。「焼失住居」とは、竪穴住居が火事になったために柱や屋根などの建築部材が炭化して良好に残るものです。焼失の原因としては『後漢書東夷伝』の「倭国大乱」などの戦乱、失火、「忌避的放火」、「焼却廃棄」などが考えられています。湯牟田遺跡では焼失住居の床面では完形の土器ではなく小片が多数出土していること、尾花A遺跡では弥生時代中期末から後期初頭は23軒中1軒であるのに対して後期後葉から古墳時代前期の5時期に継続的に半数以上(184軒中96軒)が焼失している状況からすると戦乱・失火による「焼けた家」ではなく、集落内・間の移動などによる何らかの理由による片付けとして「住居の焼却廃棄」した「焼いた家」です。特に焼失住居の炭化材から上屋構造の復元、放射性炭素年代法による住居の年代、樹種同定による周辺環境の復元などの多くの情報が得られます。(長津)



赤坂遺跡12号竪穴住居跡

自然史展示室紹介

ミツバツツジ類

ミツバツツジの仲間は、枝先の葉が3枚あるツツジ科の植物で、宮崎県には様々な種類のミツバツツジが見られます。早春に咲く「日向」の名前がつく「ヒュウガミツバツツジ」、尾鈴山にしか分布しない「ウラジロミツバツツジ」など、春になると県内各地で様々なミツバツツジが花を咲かせます。このコーナーでは、種類数が世界的に見ても多いエリアとされている本県のミツバツツジ類を紹介しています。

ミツバツツジ類は見分けることが困難なグループとされています。2018年には祖母・傾・大崩ユネスコエコパークのエリアのみに自生する「イワト(岩戸)ミツバツツジ」「シシガワ(鹿川)ミツバツツジ」など、名前に県内の地名がついた種類も新しく発表され、本県にはさらに多くのミツバツツジ類が自生していることが明らかになりました。(黒木)



収蔵資料紹介【動物】

オオサンショウウオ

オオサンショウウオ(学名: *Andrias japonicus*)は、国の特別天然記念物に指定されている日本固有の両生類です。世界最大の両生類で、スイスで発見された3千万年前の化石と今の姿がほとんど変わっていない「生きた化石」でもあります。

岐阜県以西の本州、四国、九州の一部で、主に河川の上中流域に生息しています。宮崎県では、高千穂町、日之影町で確認された記録があります。全身は茶褐色の地に黒色の斑紋があり、生息場所の川底に似た保護色をしています。大きく扁平な頭に直径2mmほどの小さな目があり、手足は短く、前足の指は4本、後ろ足は5本で、爪はありません。

この標本は、小林市の施設「出の山水族館」において平成12年から飼育されていた個体で、全長116cm、体重16.4kgと、かなり大型の個体でした。国の特別天然記念物であるオオサンショウウオの剥製と骨格標本を共に所蔵している博物館は少なく、とても貴重な標本です。(外山)



博物館への問い合わせ

『昔、本当に鬼はいたんですか?』

日本では、疫病のように目に見えませんが人間に害を及ぼす様々なものを「鬼」と呼んでいました。そして、日本に仏教が広がると、地獄の様子を描いた絵巻物によって「鬼」は恐ろしいというイメージが定着したといわれています。

東霧島神社には、鬼が一夜でつくった999段の「鬼岩階段」があり、願い事を唱えながら後ろを振り向かずに登り切ると、その願いが叶うといわれています。「鬼」には、人間の力の及ばぬ超自然的な力を持つものというイメージが強いようです。(永田)

